saitama.city
さいたま市PTA協議会
http://www.saitama-city-pta.jp

市P協 さいたま

No. 14

発行　さいたま市PTA協議会
編集　広報・情報委員会
　　広報担当
印刷　（有）三共社印刷所

豊かな人間関係に基づいた社会へ

第６３回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会開催

平成19年9月27日（木）・28日（金）に第63回指定都市ＰＴＡ連絡協議会研究大会・さいたま大会が、主催指定都市ＰＴＡ連絡協議会、さいたま市ＰＴＡ協議会、後援さいたま市・さいたま市教育委員会で、13指定都市より約１３０名の参加者を迎えて、大宮ソニックシティにて開催された。まず初日の開会行事では、大会実行委員長である向江正晃より挨拶があり、本研究大会の趣旨説明並びに研究主題にいたる経過説明があり、晴れやかにスタートした。内容としては、開会行事の後に研究主題について４つの分科会（注１）に分かれて開催され、翌日朝からは、同じく４つの分科会でさいたま市の協力のもと「潤いの時間」体験講座（注２）を実施した。その後締めくくりとして全体報告会並びに閉会行事が開催され、成功裏にさいたま大会を終了した。（２ページへ続く）

▲大会会場のソニックシティ

▲全体会　開会式

▲大会案内看板

▲全体会　開会式にて意見を述べる

1. 趣　旨

人と人との関係が希薄になりつつある現代社会において、どのようにして人と人とをつないでいくかは、とても重要な課題となっています。この研究大会では、単に知識を学ぶだけではなく、よいコミュニケーションを形成していくためのいくつかの手法を体験していただきます。

具体的なコミュニケーションの手法を体験することにより、参加者そして各ＰＴＡの活動が活性化され、豊かな人間関係に基づいた社会に結びつくことを目的とします。参加者全員が新しい自分に気付き、充実した家庭生活やＰＴＡ活動を行うきっかけとしましょう。

2. 研究主題

様々なコミュニケーションの手法を体験を通して学ぶ。

3. 開催場所

大宮ソニックシティ　http://www.sonic-city.or.jp/index.html
＜住所＞〒330-8669　さいたま市大宮区桜木町1-7-5
＜電話＞048-647-4161
＜ｱｸｾｽ＞ＪＲ大宮駅西口から徒歩5分
【会議・分科会】　7階　会議室
【全　体　会】　4階　市民ホール
【レセプション・宿泊】　パレスホテル大宮
http://www.palace-omiya.co.jp/index.html
TEL：048-647-3300

4. 参 加 者

札幌市、仙台市、千葉市、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、福岡市、北九州市、さいたま市
（13指定都市より約130名）

▼セッション１　（注１）

分科会		ファシリテーター
第1分科会	インプロ（即興演劇）入門 ～感じるままに動いてみよう～	池上 奈生美 氏 （インプロジャパン代表取締役）
第2分科会	ファシリテーション入門 ～活性化したPTAをつくるためには～	青木 将幸 氏 （青木将幸ファンシリテーター事務所）
第3分科会	親と子のコーチング入門 ～子どもと接するためのヒント～	菅原 裕子 氏 （有限会社ワイズコミュニケーション代表取締役）
第4分科会	アーサティプ・トレーニング入門 ～さわやかな自己表現を学ぶ～	金屋 光彦 氏 （臨床心理士）

▼セッション２　（注２）

分科会		ファシリテーター
第1分科会	小・中一貫　英会話	さいたま市教育員会指導１課
第2分科会	小・中一貫　英会話	さいたま市教育員会指導１課
第3分科会	人間関係プログラム	さいたま市教育員会指導2課
第4分科会	人間関係プログラム	さいたま市教育員会指導2課

パパ・ママ応援ショップ

**優待カードを
お持ちのお客様に
特典を用意して
おります**

※詳しくは、埼玉県のホームページ
http://www.pref.saifama.lg.jp/

自慢の広報紙をコンクールへ

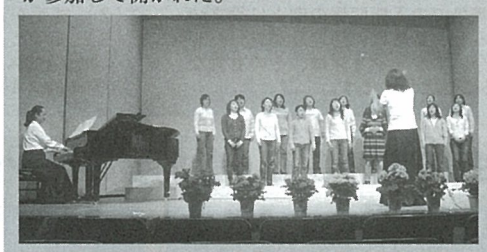
募集

今年度もPTA広報紙コンクールを開催します。**3月21日（金）**までに、1年分の広報紙を市P協へ送って下さい。詳しくは、すでに送付されています「開催要項」をご覧下さい。

サークル活動

コーラス祭

年明けの１月13日（日）さいたま市PTA協議会コーラス祭が大宮ソニックシティ小ホールで行われた。各校ＰＴＡ内のサークル、毎年コーラス祭の度に結成される団体、さらに地域的なPTA活動によって交流を深められた方達の集まりと、様々な枠を越えたコーラス隊の合計11組が参加して開かれた。



ビーチボール大会

10月13日（土）岩槻文化公園体育館にてさいたま市ＰＴＡ協議会　親善ビーチボール大会が開催された。

真剣な眼差しで頑張るチーム。笑いがあってどのチームもはつらつとしていた。
参加校は、岩槻区の小・中・高の他に見沼区・桜区からの参加もあった。
一般チームと役員チームに別れそれぞれ２６チームのなかで各コートごとに優勝が決まり賞状が授与された。

バトミントン大会

平成19年７月４日（水）第５回さいたま市ＰＴＡバトミントン大会が駒場体育館にて開催された。経験者も始めたばかりの人も楽しく試合ができるように、ランク別と新人の部に分かれての大会に参加者は真剣かつ笑顔でプレイし、日頃の練習の成果を発揮していた。

優勝チーム
一般Ｂ１　飯塚さん、川島さん（指扇小）
一般Ｂ２　阿部さん、三浦さん（仲町小）
一般Ｃ　長坂さん、中山さん（仲町小）
新人の部　星野さん、太田さん（大砂土東小）

卓球大会

平成19年11月9日（金）9時半より開会式が担当校の三室中学校高橋さんの司会で行なわれ、卓球協会桜田さんのご協力の下、12チーム61名の参加で熱戦が繰り広げられました。

優勝は木崎中Ａ、2位大谷口中Ａ、3位三室中でした。又今回は同時に卓球講習会を矢部さんの指導で行ないました。

第63回 指定都市PTA連絡協議会研究大会 分科会概要

セッション１
【第１分科会】講師：池上 奈生美
インプロ（即興演劇）入門　～感じるままに動いてみよう！～

インプロのゲームを使った体験形式のワークショップとなります。
インプロとは、台本や打ち合わせのない即興劇で、その場でお互いに感じあいアイデアを出し合い、受け入れあいながら創られていきます。ゲームを通して、瞬時に受け入れ判断していくことを体感していきます。
今までの自分の伝える姿勢、受け取る姿勢に気づくとともに、より積極的に関わることを、相手に伝えていくこと、感じ取ることを体感、会得していき、自然とコミュニケーション能力、変化対応能力も身についていきます。

【予定されている主なゲーム】
「ミーティング・グリーティング」
（目的）チームビルディングの基本となるアイコンタクトと信頼関係の構築
（方法）自己紹介を兼ねアイコンタクトをしながら他の参加者と言葉を交わしていきます。
「イエスアンド会議」
（目的）相手のアイディアを受け入れ、それに自分なりのアイディアをプラスすることにより、アイディアを前向きに発展できるようになる
（方法）全員で輪になって行います。アイディアが出たら「はい、そして....」という言葉で自分のアイディアを積み上げていきます。
「チャンス・ゲーム」
（目的）新しい出来事を瞬時にして受け入れ、チャンスとして発展させていくスキルを身につける
（方法）架空の会社の問題解決策を自由に出し合います。

セッション１
【第２分科会】講師：青木 将幸
ファシリテーション入門　～活性化したPTAをつくるには～

ほとんど講義らしい講義をしないつもりです。
対話、体験、体感する時間の中から
「～活性化したPTAをつくるには～」を共に考えてゆきましょう。
身軽な服装と、楽しむ心を持っておいでください。
わいわいがやがやと楽しく、有意義な時間になるよう進行するつもりです。
どうぞよろしくお願いします。

セッション１
【第３分科会】講師：菅原 裕子
親と子のコーチング入門　～子どもと接するためのヒント～

アール・ウッズは息子のタイガーをゴルフ界の天才としてだけではなく、その精神力の強さ、自信、高潔さ、マナーの良さなどの多くの面で世界中から愛されるスターに育て上げました。彼がタイガーを育てたその子育ては、まさに「コーチとしての親」としてのやり方そのものです。
親が適切なやり方で子育てする時、子どもは潜在能力を開花させます。スポーツの世界ではこのような例によく出会います。
私達の子育てはどうでしょう。子どもに少しでもいい人生をと頑張る私達の努力は報われているでしょうか。同じ努力をするなら親にとっても充実感のある、しかも子どもの能力を引き出すやり方があります。それがコーチングです。
コーチングを学ぶ事は、子どもの人生にとって大きな贈り物をするだけでなく、親自身の生き方にも変革をもたらします。ハートフルコミュニケーションは親のためのコーチングワークショップとして、子育てを通した親の自己成長を提案しています。子どもが彼ら自身の潜在力を伸ばすよう生きる援助をしながら、親としての自分の人生を考えてみませんか。子育ては子を持つ人にのみ許された成長の機会です。
ハートフルワークショップはハートフルコミュニケーションの子育て法を学ぶための場です。
◆前半：ハートフルコミュニケーション「愛すること」「責任」「人の役に立つ喜び」に基づく子どもへのコーチング法の基本的考え方の紹介。
◆後半：ロールプレーによる体験学習と質疑応答

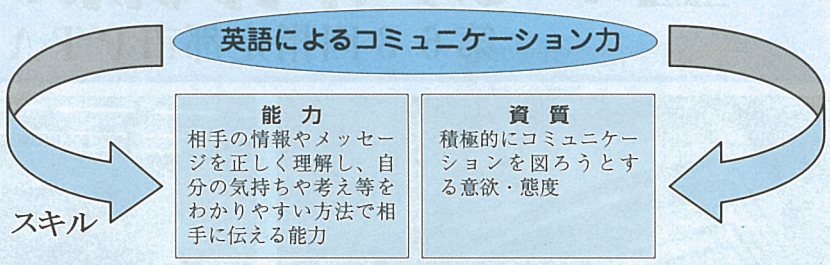
セッション１
【第４分科会】講師：金屋 光彦
アサーティブ・トレーニング入門　～さわやかな自己表現を学ぶ～

米国の心理学者が、人のコミュニケーションを分析したところ、3種類に分類できることを明らかにしました。その具体的内容は、①「受け身型コミュニケーション」、②「攻撃型コミュニケーション」、それと③「アサーティブコミュニケーション」の３つです。
この講座では、相手も自分も大切にする「アサーティブコミュニケーション」を講義と演習とを織り交ぜながら楽しく学びます。アサーションとは何か？まずその理念と構造を理解し、その具体的技法であるアイメッセージや4段階話法等も、体験しながら学習していきます。
これらの講義や演習を通して、アサーションの本質が、コミュニケーションの技術のみならず、主体的で自律的な生き方と密接に結びついていることを実感されるでしょう。アサーションが、さわやかな自己表現といわれる背景もそこにあります。
この講座は、参加者のみなさんが、このアサーションのエキスを感得することをめざすものです。それにより、学校での人間関係をはじめ、家庭や職場での人間関係の向上に役立つでしょう。また、自己決定・自己責任の生き方が求められる今、さらに、急速なグローバル化を迎え、世界各国の人たちと円滑な人間関係が望まれる今、アサーションは、その有効なツールの１つとして、みなさんの生活をより豊にしてくれることと思います。

セッション２
【第１・第２分科会】
「さいたま市潤いの時間」体験講座
小・中一貫「英会話」　～英語によるコミュニケーション力を育てます～

講　師
指導１課国際教育係長兼主任指導主事　　阿久津 一浩　英会話指導員　須川かほる
指導１課指導主事　安部恭子　英会話指導員　熊谷美果

▼さいたま市小・中一貫「英会話」の概要
さいたま市では、独自のカリキュラムのもとに、「英語によるコミュニケーション力」の育成を目指して、小学校５年生から中学校３年生までの５年間の「英会話」に取り組んでいます。



英会話の授業時数・形態

小学校５・６年：年間３５時間（週１回）
学級担任＋日本人英会話講師、外国語指導助手が指導
中学校１・２・３年：年間１７時間（２週に１回）
外国人英語講師＋日本人英会話講師が指導

※平成１９年度は、市立全小・中学校で「英会話」を開始しました。

▼体験講座のあらまし
1　ウォーミングアップ
2　アイスブレーキング（主に小学校で行うコミュニケーション活動）
　英語で互いを知り合おう！
3　ブレーンストーミング（主に中学校で行うコミュニケーション活動）
　英語で自分を表現しよう！
※筆記用具をご用意ください。
※動きやすい服装でご参加ください。

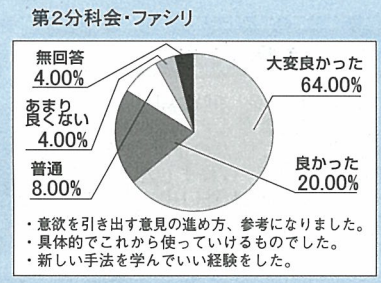
セッション２
【第３・第４分科会】
「さいたま市潤いの時間」体験講座
人間関係プログラム　～豊かな人間関係づくりの能力を高めます～

▼さいたま市人間関係プログラムの概要
さいたま市では、小・中一貫「潤いの時間」教育特区が平成１７年３月に内閣府により認可され「人間関係プログラム」と「英会話」の授業を実施しています。
人間関係プログラムでは、人と接する際に必要な姿勢・態度、感情のコントロールの仕方、相手の感情を読み取る仕方等を楽しく擬似体験しながら学習し、日ごろの授業や行事などをはじめとする直接体験の場で定着を図ります。
＜プログラムの内容＞
（１）目標
ア　「相手の立場を尊重しつつ、自らの気持ち、考え、主張などを率直に、その場にふさわしい方法で表現する」ために「相手とトラブルなく円滑に自分の意思を伝える」スキルを習得する。
イ　「相手の働きかけに対して適切に反応する」ために「会話において必要となる」スキルを習得する。
ウ　「児童生徒の自己主張、自己開示、自己表現がより推進される」ために「学級にあたたかな人間関係」を育む。
（２）実施学年　小学校３年生から小学校６年生、中学校１年生
（３）実施期間　各学期のはじめに６時間、計１８時間実施
▼体験講座のあらまし
あたたかな人間関係を育む構成的グループエンカンターを実施後、会話において必要となる基本的な技術や相手とトラブルなく円滑に自分の意思を伝える技術の習得を体験します。
（１）構成的グループエンカウンター
「探偵ごっこ」「聖徳太子ゲーム」等
（２）相手が元気の出ない聴き方、相手が元気の出る話の聴き方
（３）相手とトラブルなく円滑に自分の意思を伝える方法
・非言語的スキル
・言語的スキル　「４段階話法」

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆大会に参加して「参加者のアンケート」結果◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

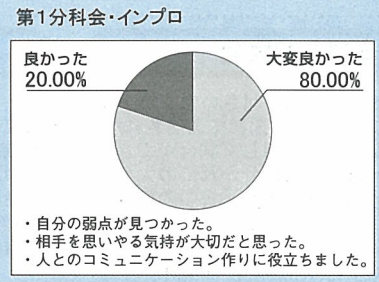
1日目

第2分科会・ファシリ



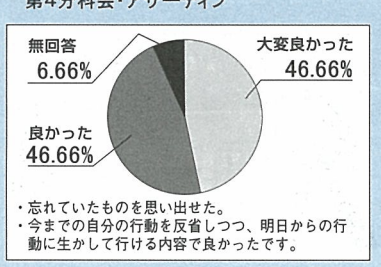
・意欲を引き出す意見の進め方、参考になりました。
・具体的でこれから使っていけるものでした。
・新しい手法を学んでいい経験をした。

第1分科会・インプロ



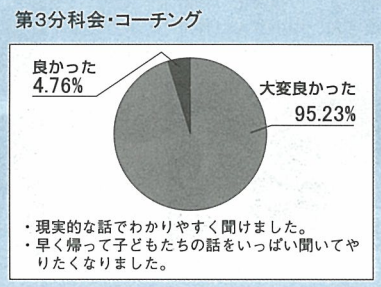
・自分の弱点が見つかった。
・相手を思いやる気持が大切だと思った。
・人とのコミュニケーション作りに役立ちました。

第4分科会・アサーティブ



・忘れていたものを思い出せた。
・今までの自分の行動を反省しつつ、明日からの行動に生かして行ける内容で良かったです。

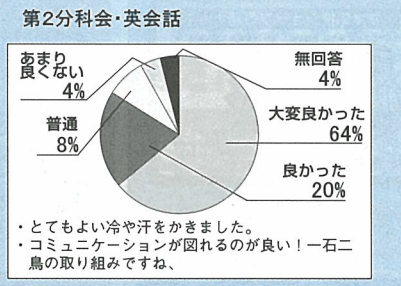
第3分科会・コーチング



・現実的な話でわかりやすく聞けました。
・早く帰って子どもたちの話をいっぱい聞いてやりたくなりました。

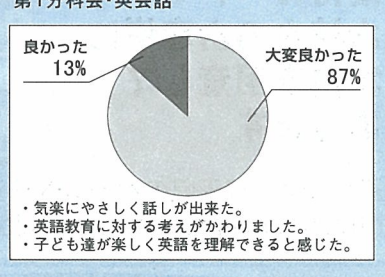
2日目

第2分科会・英会話



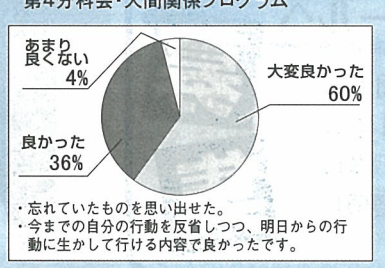
・とてもよい冷や汗をかきました。
・コミュニケーションが図れるのが良い！一石二鳥の取り組みですね、

第1分科会・英会話



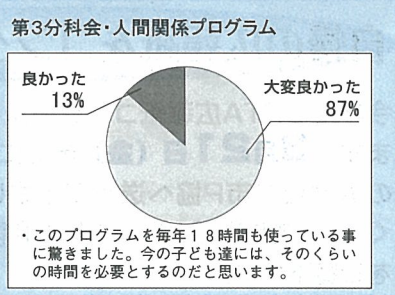
・気楽にやさしく話しが出来た。
・英語教育に対する考えがかわりました。
・子ども達が楽しく英語を理解できると感じた。

第4分科会・人間関係プログラム



・忘れていたものを思い出せた。
・今までの自分の行動を反省しつつ、明日からの行動に生かして行ける内容で良かったです。

第3分科会・人間関係プログラム



・このプログラムを毎年１８時間も使っている事に驚きました。今の子ども達には、そのくらいの時間を必要とするのだと思います。

特集　放課後子ども教室　～放課後子どもプラン～

「放課後子どもプラン」をご存知ですか？
「放課後子どもプラン」とは地域社会の中で放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して健やかに育まれるように、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施するものです。各市町村において教育委員会が主導し、福祉部局と連携を図り、原則としてすべての小学校区で総合的な放課後対策を推進することを目的とし、平成19年度よりスタートしました。

具体的には、放課後や週末等の子どもたちの遊びや生活の場を確保するために、小学校の教室などを活用し、地域の方々の参画を得ながら学習やスポーツ・文化活動をしたり、公民館や児童館なども利用し地域性を生かした活動をしたりしています。

「放課後子どもプラン」の基本的な考えにおいて、さいたま市でも児童の総合的な放課後対策のあり方を検討する「さいたま市放課後子どもプラン推進委員会」を関係諸団体の協力のもと立ち上げ、平成19年度現在、市内で活動・実施している12の教室を参考に「さいたま市放課後子ども教室運営形態モデル（案）」の作成や13教室目のモデル校の推進を図っています。

子どもたちは地域の宝です。その子どもたちのために、安心して生き生きと活動できる居場所を、家庭・学校・地域みんなでつくっていきましょう。そして、子どもたちとのふれあいを通して大人たちも交流を深め、地域を活性させて地域全体で未来を担う子どもたちを育てていきたいですね！
今回は5つの学校で実施している教室を紹介しています。みなさんも「放課後子どもプラン」について考えてみてはいかがですか？

桜木小学校　「桜木・上小子ども広場」「おもしろえいごクラブ」

大宮区の桜木小学校では平成17年５月から「桜木・上小子ども広場」を、青少年育成桜木地区会・桜木地区社会福祉協議会の後援のもと、民生委員・児童委員の協力で実施している。

はじめたきっかけは、さいたま市教育委員会の依頼により、文部科学省委託事業（子どもの居場所づくり）のひとつとして開催し、今年度からはさいたま市の子育て支援課の委託事業になっている。（市報さいたま8月号に掲載）

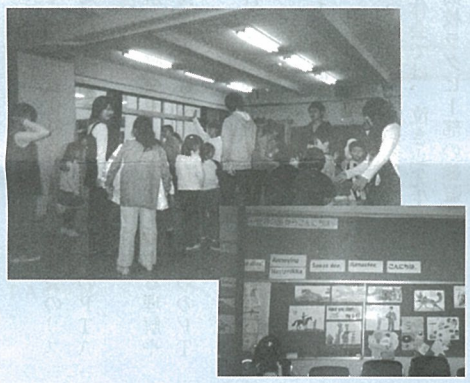
学校の協力で多目的室を提供してもらい、毎週月曜日は「子ども広場」として宿題や自由遊び（昔遊び）・漢字・工作・読み聞かせ・ゲーム等で楽しみ、そして、毎週木曜日は「おもしろえいごクラブ」として、聖学院大学の学生たちが授業の一環として子どもたちに英語の指導をしている。

スタッフとしては主任児童委員・地域のボランティアのほかに、ＮＰＯ法人 教育支援協会の協力も得ている。また、春・夏・冬休みはどちらも開催せず特別プログラムとして、ハイキング・お料理・七宝焼などを実施している。

子どもたちの安全面を考慮し、保護者への説明会を行ったうえ申し込み登録制にしており、帰りは保護者の迎えを原則としている。

始めたころは挨拶やきちんとした会話も出来なかった子どもが多かったが、回を追うごとに挨拶はもとより、きちんとお礼が言えるようになってきたことにスタッフ一同喜んでいる。また、異年齢との交流の中で、お互いに助け合ったり優しくしたり、時にはぶつかり合ったりしながらも、他人との関わり方を身につけていってほしいとも話している。

ある日の「子ども広場」では宿題をやった後、新聞紙で作った輪を使い輪投げゲームをして、最後に昔話を聞くといった内容であった。子育てを数年前に終わらせた世代のスタッフが、自分のおばあちゃんから教わったような事を、子どもたちとの遊びの中で自然に伝えているように感じられた。また、「おもしろえいごクラブ」では子どもたちが先生役の大学生と、“和気あいあい”と友だちのような感覚で楽しく英語を学んでいる姿がとても印象的だった。



馬宮西小学校　「馬西っこクラブ」

Q. 立ち上げの経緯と苦労
A. 平成18年度に放課後子どもクラブの計画がさいたま市より出されました。本校には、学童クラブのような組織がなく、「子どもたちを安心して預ける場所がほしい」と言う保護者の声が多くあったので、馬宮西にぜひ開設したいと立候補しました。そこでの問題点は、指導者でした。「誰が運営や実施を行うか」さいたま市子育て支援課とこの問題について検討し、NPO法人「教育支援協会」の浜中さんがリーダーとなって設立に協力してくれました。今でも、馬宮地区の方を中心に子どもたちと一緒に活動してくれています。残念なのは、馬宮西の地区の方が少ない（いない）と言うことです。

Q. 活動への関わり方
A. すべて、ボランティアの方にお願いしています。日程の調整等は、教頭先生と行っています。

Q. 成果
A. 子どもたちの活動の幅が広がったように感じます。
成果としては「保護者が安心して、学校に子どもを預けることができる」「教職員も子どもたちが残っていても安心して仕事をすることができる」「放課後の子どもたちの活動を安心して任せられる」などの意見がありました。

Q. 今後の課題
A. 保護者の要望は、「少なくとも週に２～3回実施してほしい」「学童クラブの代わりの役割をしてほしい」というものですが、現在のスタッフでは難しいと思います。
また、馬宮西の地区の方が少ない（いない）ので、今後、他校が取り組み始めてしまうとスタッフが分散してしまい、週１回確保できるか心配です。
この地域(馬宮西)の方のボランティア活動でこのクラブの運営ができることが望ましいと思います。

下落合小学校　「ふれあい教室」

中央区の下落合小学校では平成17年より、昼休みや放課後に学校の空き教室を利用し、地域の方々と児童が「昔遊び」などをする「ふれあい教室」を開催している。
開設のきっかけは、「子どもたちを地域の力で守ってもらいたい」という思いから、当時のPTA会長が自治会の方々にお願いに回り「防犯ボランティア」を立ち上げ、「地域・学校・保護者が一体となって子どもたちを育てよう」という考えのもと「ふれあい教室」の活動がはじまった。
現在は週4日開催し、毎回地域の方が2名ずつ交代で見守り、15名位の子どもたちと、お手玉・おはじき・卓球などをしてふれあい、下校時は同じ方向の子どもたちといっしょに帰るようにし、防犯ボランティアの役割も担っている。

学校側も空き教室を提供したり、校長先生・教頭先生が毎日のように教室に通ったりしている。また、PTAと学校の共催事業である「ふれあい広場2007」においても、茶道教室を「ふれあい教室」メンバーが主体となり開催し、そこに与野東中の茶道部が協力するなど、地域・学校・保護者が一体となり子どもを育成するという意識が強まっている。

この活動をきっかけに、「地域の方たちの子どもたちに対する様々な意識が向上した。そして子どもたちにとっても、学校で一緒に遊んだことのある地域の“おばちゃん”が下校時に通学路に立って挨拶をしてくれたりすると、見守られているという安心感が何者にも代えがたいものである」と、ふれあい教室運営組織の代表となっている大崎PTA会長が話していた。
または、「今後放課後の部分の拡大や放課後児童クラブとの棲み分けおよび連携、そのための人材育成が課題となる」とも話している。

七里小学校　「ななさとあそびの城」

文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」を一体的、または連携して実施する事業の一環として、平成１６年度より「ななさとあそびの城」は始まりました。

みんなの居場所をつくろう！という目的で、放課後や週末に地域の力を結集して、「誰でもいつでも自由に出入りできる、あそびの宝庫！！」をモットーに、ゲームやスポーツ、工作、折り紙など、たくさんの企画を用意して子どもたちを待っています。スポーツや文化活動などのさまざまな活動体験や、交流活動を子どもたちと共に遊び、共に楽しみ、そして、子どもたちと心の交流を！！と頑張っております。学年の異なる子どもたちが共に遊び、その中で自然にリーダーができ、子どもたちの中で約束事をつくり、最後にはみんなが笑顔で帰れる居場所にしていきたいと思って活動しています。共に遊んでいただける保護者の方をいつでも募集しておりますので、みなさん子ども連れで気軽に遊びに来てくださいね。

仲町小学校　「わくわく３・５（さんご）くらぶ」

仲町小学校の放課後子ども教室「わくわく3・5(さんご)くらぶは、学校の終わる“3時頃から5時まで”という意味と“海の中で小魚が安心して集うサンゴ礁”の様になればという願いが込められている。現在、1年生から5年生までの児童53名が利用している。「このペットボトル風車うまく回らないよ」「どれどれ、これでは風の抵抗をうけにくいなあ」こんなやりとりで、いつも柔和な笑顔でくらぶを支えてくれているのは地域ボランティアの大西さん。和やかなマンドリンの音色を聞かせてくれるのは安永さん。高校生ボランティアのさきちゃん、26歳の鈴木君はボール遊びなど体を動かす遊びの人気者。最年長の星野さんは昔遊び、アイディアいっぱいの工作などを担当し、なくてはならない存在。しかし、このような活動がスムースに行なえるのも自ら手を挙げ参加しているボランティアのママさん達の役割も大きい。子どもを参加させながら毎回2名が安全管理、また、他の4名で受付、準備に携わっている。毎年度確実に集められるわけでもなく、負担も大きい為、この人材の確保が今後の課題。

主催が国からさいたま市に移行された昨年3月、前任者「こども劇場」さんが築いた遊び場をなくしたくないという地域の方々の思いが結果に表れている。課題は山積みだが、前任者、ボランティアの方々への感謝の気持ちと夢中になって遊ぶ子どもたちをみていると疲れが吹き飛ぶ。

さいたま市の特別支援教育とは

市教委との懇話会

7月11日(水)ときわ会館にて、さいたま市教育委員会学校教育指導2課の方を講師に迎え「特別支援教育」についての講話が行われた。

現在、通常学級での発達障害児と思われる児童・生徒が増加しつつあることから、通常学級のLD(学習障害児)・ADHD(多動障害児)・高機能自閉症児等の指導、支援を行っている。

発達障害児の特徴や対応例などのお話がありました。講話の中で心に残ったのは、とかくそういうことには顔をそむけがちになるが子どもの状態に親・教師・他の保護者が気付く事、そして一人で悩むのではなくみんなに理解してもらい、どう取り組むか考えていくことが大切だと感じた。

▲熱心に聞き入る参加者

さあ、はじめよう!びわこから!

日P全国大会滋賀・びわこ大会

8月24日(金)25日(土)第55回日本PTA全国研究大会滋賀びわこ大会が開催され、さいたま市PTA協議会からは12名が参加し、大会1日目はPTA活動の重要性と役割・広報活動・地域連携・人権・国際理解・保険安全・教育改革など10の分科会に分かれ、実践発表や基調講演・意見交換を行った。2日目は全大会で、大会宣言・決議が採択された。記念講演は青島広志先生による「コミュニケーションのための音楽」題して師・友人・後輩・生徒たちとの経験談を小野勉先生と音楽コラボレーションでわかりやすく講演をいただいた。

▲大会会場、大津プリンスホテル

▲パネルディスカッションの様子

育もう 豊かな心と生きる力を 支えよう 優しさと夢ある子どもたちを

関東ブロック栃木大会

▲次回大会のPR

10月19日(金)20日(土)第39回(社)日本PTA関東ブロック研究大会栃木大会が開催された。子どもたちの安全・安心と健全な育成を目指しPTA・保護者の役割について、特別分科会を含む8分科会が展開された。

さいたま市PTA協議会からは58名の参加。それぞれの分科会で意義ある研究協議が行われた。

メインテーマ

一、組織・運営/PTA活動に対して会員の参加意欲を高め機能的に活動できる組織・運営

二、家庭教育/親として生き方を振り返り、家庭の教育力を向上させるためのPTA活動

三、健康・安全/子どもたちの健康・安全を確保するためのPTA活動

四、人権・共生/子どもたちに人権感覚を身に付けさせるためにPTA(保護者)の果たす役割

五、地域連携/学校・家庭・地域社会が協働して心身ともに健全な子どもたちを育成するためのPTA活動

六、広報・IT/情報化社会(ネット社会のリスク・進化する携帯電話)に対応するためのPTA活動の取り組み

七、国際理解・国際交流/異文化に対する理解や思いやりを持つ子どもたちを育成するためのPTA活動

八、特別分科会/児童・生徒に係わる緊急事態発生時の対応について

各テーマとも、講演や研究発表などさまざまな工夫で行われ、PTA活動を考えるたいへん意義深いものとなった。

最終日の全体会では、泣き虫先生として有名な伏見工業高等高校ラグビー部の総監督で、あのスクール☆ウォーズのモデルにもなった山口良治氏より「信は力なり」のテーマで記念講演が行われた。自ら日本代表入りを果たしたことや荒廃していた高校をラグビーを通して立て直した実体験からは、山口氏の使命感を強く感じた。そして現代の子どもと大人の信頼関係に危機感を感じ訴えかける言葉の一つひとつに胸が熱くなった。

最後に、来年度の開催地、埼玉県P連によるデモンストレーションがあり、子どもたちの夢と希望に満ちた未来に向け、PTA活動の充実と発展を考えさせられた2日間が終わった。

さいたま市の自然教育

赤城・舘岩視察研修会

昨年の10月27~28日の土日にかけ一泊二日の日程でさいたま市が所有している少年自然の家の視察研修が実施された。参加はさいたま市内公立小中学校PTA会長を中心とした関係者、合計31名。施設運営は先生方が交替で勤務され、食堂の方々とかの職員は現地にお住まいの方が中心となって運営されている。私たちが知っている先生方がこの自然を熟知され、直接指導に当たってくださる環境は、さいたま市の子どもたちにとっても大切な資産となっている。家を離れ、先生方のご指導の元で、友人達と協力しながら活動している姿想像すると、短くともこの自然の家での経験を終える頃には、またちょっぴり成長した姿で帰宅するのだろうと思えた。

▲視察に参加したメンバー舘岩少年自然の家にて

子どもたちの未来を語りあおう!

市教委との交流会

10月4日(木)浦和ワシントンホテルにて交流会が開催された。

市教委24名、学校長代表2名、各校PTA会長132名の参加があり、藤間文隆教育長よりご挨拶と講話があった。

講話は、授業における子どもの考え方の「子どもの目線」・学習指導要領の変遷に伴う基礎基本的な知識・技能を教える過程で、考える力・思考力・創造力も養う「教育思潮の変遷」・教育のレベルアップを図る。といった内容を話して頂いた。

引き続き、鯉沼貢副教育長の乾杯のご発声で懇談が始まった。子どもたちの未来や環境の充実など教育委員会の方とPTA会長との意見交換がなされ有意義な場となった。

▲懇親会であいさつ

生きることと人権!　役員研修会

日時:平成19年11月29日(水)13:00~15:15
場所:さいたま市民会館おおみや 大ホール
さいたま市PTA協議会役員研修会では、人権教育推進協議会と共催し1部では人権標語/人権作文の表彰が行われた。

第2部では俳優、演出家そして絵本作家として有名な米倉斉加年さんによる「生きることと人権、そして私のメルヘン」という演題で講演していただいた。
講演の中で、「若い人が、利益を追求する一部の人間のために消耗品として使われる世界では未来は見えない」「一つの差別はすべての差別につながり、一つの差別をなくすことはすべての幸せに通じる」という言葉が印象に残った。

▲まもる君とあゆみちゃんも舞台に登場

▲表彰状を受け取る顔にはよろこびの笑みが

▲ユーモアをまじえて語る　米倉氏

さいたま市内の国立・市立小中高・養護学校へ通っている児童・生徒の皆さんの事故を24時間幅広く補償します!

さいたま市PTA協議会
「児童・生徒ワイド補償制度」加入受付中!
(団体傷害総合保険)

毎年、多くの方々に新規ご加入いただき、現在では13,600名の生徒の皆様にご加入いただいております

補償制度の特長

1. 一般加入と比べて44%割引のお得な保険料
2. 学校管理下・管理外を問わず「24時間補償」
3. 傷害補償は、入院・通院とも「1日目から補償」
4. さらに入院は「1000日まで補償」
5. 加入児童・生徒の扶養者に万一のことがあった場合の「育英費用補償」
6. 加入児童・生徒がストーカー犯罪やひき逃げ事故に遭われた場合の「被害事故補償」

いつでもご加入いただけます!
(年間保険料3,000円が薦)

※本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご契約に際してはパンフレットをご参照ください。

さいたま市PTA協議会ホームページ　http://www.saitama-city-pta.jp

当制度のお問い合わせ先・パンフレット請求先

さいたま市PTA協議会「児童・生徒ワイド補償制度」係
(事務局) さいたま市大宮区大門町3-1　大宮区役所東棟1F
取扱代理店:(有)池田保険事務所
〒336-0932 さいたま市緑区中尾1424
〔お問い合わせ先〕 TEL:048(875)9133 FAX:048(810)1502

引受保険会社(株)損害保険ジャパン(幹事会社)
埼玉支店さいたま総合支社販売推進グループ
さいたま市大宮区桜木4-82-1 TEL048(648)6063
AIU保険会社 東京海上日動火災保険(株)　SJ07-10612 2008年2月5日作成